

西高
だより

鼓動
Sound of Heart

山形県立酒田西高等学校
(通算第102号)
平成29年3月1日

「挑戦する勇氣」

校長 柿崎 則夫

3年次生のみなさん、卒業おめでとう。これまで、式辞や折々のあいさつのなかで、「挑戦・チャレンジ」ということを言ってきたので、ここでも挑戦ということにこだわってみたい。

「ここでいいなら頂上だけど 先を見上げりや まだ中半(北島三郎「峠」)」という歌がある。君たちが巣立っていく社会は、われわれの世代が経験したもとは全く違う、厳しいところなのだろうと思う。「大学に入ってしまったば」「就職してしまえば」、エレベーター式に人生が進んでいく、そんな未来は君たちの前にはなく、もっと別な頂上をめざして絶え間なく挑戦することや、傍らを通り過ぎる「チャンスという名のバス」を見逃さないよう細心の注意を払い、それに乗る勇氣を持つことを求められつづけていくことになるだろう。

センター激励会で「宙船」という歌を紹介した。中島みゆきの歌だが、彼女の歌をももいろクローバーZが歌っている。「強くなれ 泣かないで 強くなる 負けないで」で始まるその歌の題名は「泣いてもいいんだよ」。「泣くな！」とか「泣いてもいい」とか、人生の励まし方はさまざまだが、それらの激励には、「幸せになってね」という思いが込められているはずだ。「何が君の幸せ 何をして喜ぶ……愛と勇氣だけが友達さ」、アンパンマンも言っている。諸君の“挑戦する勇氣”ある人生に、幸多からんことを。



「生きている」!

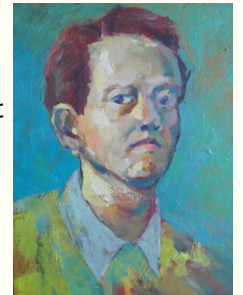
3年次主任 佐々木 正弘

西高での3年間、数えきれない体験を積み重ねてきた皆さん。あなた達の人間の成長には計り知れないものを感じうれい限りです。しかし、この成長は決して一人ではなし得なかったことであり、プラスであれマイナスであれ、西高に入学しここで多くの仲間と出会ったことが全ての始まりだったと思います。

ところで、事の発端は西高生となったことでしょうか、それ以上に重要な事実があります。それは、ともすると忘れられがちな「今生きている」という途方もなく当たり前の現実です。日々の生活の中で、生きていることはあまりに当たり前すぎて、私自身もなかなかその重さを自覚しているとは言い難いのですが、いわんや皆さんはでしょうね。

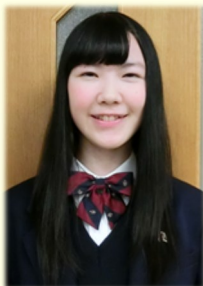
個性豊かな179名の皆さん。まだまだ実感としては捉えがたいでしょうが、これまで同様これからも精一杯生き抜いていってください。生きている限り、人はいろんなことに出会い変化し続けます。高校を巣立つということは、真の意味で自ら歩むということ。全ての事柄に優先し、「生きる、生きている」を大切に! 極端かもしれませんが、死ぬな!

改めて、人生の進路決めという大仕事に臨んだ我が子を、陰に日向に見守り続けてくださった全ての保護者の皆さん、言葉に言い尽くせないご苦労に心から感謝とお礼を申し上げます。3年間本当に有り難うございました。



「初志貫徹」 卒業生 阿部 未波

西高で過ごした3年間で、私は勉強だけではなく、自分を支えてくれた仲間や先生方の存在の大切さを学びました。私は西高に入学してすぐに、「夢を叶えるためこの大学へ行きたい」という目標を持ちました。その目標を最後まで諦めず実現できたのは、辛い時寄り添ってくれた仲間や、進路実現のため、毎日相談に乗ってくれた先生方の協力があったからこそでした。今まで自分を支えてくれた方々への感謝を忘れず、夢に向かって前進していきたいです。西高で3年間過ごすことができて幸せでした。ありがとうございました。



「三年間」 卒業生 佐藤 海

私は西高で過ごした3年間で人と人との繋がりの大切さを強く感じました。勉強や部活動、日常生活など様々な場面で私は本当に多くの人に支えられて過ごしました。進路実現を目指す私と真剣に向き合ってくれた先生方、いつも変わらず支えてくれた多くの友達のおかげで進路実現に向けて、また人間的な成長としても一歩踏み出すことができました。短い3年間でしたが、その分小さな1つ1つが大きな財産になりました。3年間ありがとうございました。



3年次担任より

◇卒業おめでとうございます。この三年間、毎朝八時二十五分に教室に行けばそこにあった皆の姿を、もう目にする事ができなくなる…。そう思うと何とも寂しい気持ちになります。でもその一方で、君たちがどんな大人になるのがすごく楽しみです。自分の目標に向かって、元気に、そして一生懸命努力を重ねていくのだらうと思います。いつの日か、成長した姿を見せに来てください！また会える日を心から楽しみにしています。

(一組担任 中嶋真理子)

◇卒業おめでとう！この三年間、みんなのパワーとエネルギーを存分に吸収させてもらったおかげで、いつの間にかアラフォーくらいの気分に戻りました。あくまでも気分ですが。一方、皆さんはこれから本当にエキサイティングな時代を迎えることになりました。世界が広がり、今まで予想もなかったことが待っているかもしれないですが、恐れることはありません。自慢の度胸と笑顔で新しい舞台に力強く踏み出そう！

(二組担任 松本 陽子)

◇学生生活も一区切りです。高校を卒業し、社会に出ていくことの良いところの一つに、自己裁量の幅が広がることがあります。自由である分、責任も伴っていきます。本当の意味での「学び」の始まりが、4月から、皆さんを待っているはずですよ。皆さんの失敗を体験し、一歩ずつ遅くなっていく皆さんと再会できることを心待ちにしています。

(三組担任 土門 俊樹)

◇ついにみんなも卒業ですね。そんな日がどんな風に訪れるのだろうか、入学式の日には遠い先のことのように思っていました。卒業したての頃は早々に学校に遊びに来る生徒が多いですが、時が経てば経つほど足が遠のきます。誰かリーダーシップをとって同級会、同窓会を開いて、私の記憶があるうちに呼んでください。みんなの活躍ぶりが聞きたいです。ぜひ海外に羽ばたいて、日本に、西高に凱旋してくれることを期待しています。

(四組担任 小野寺歩美)

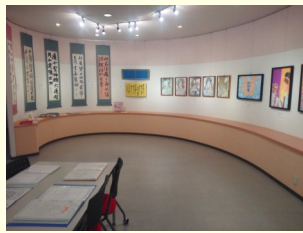
◇卒業おめでとうございます。二年夏の新潟大学行きのバスはあんなに静かだったのに、今はこんなに仲の良いクラスになりました。が、今日をもって三年五組は解散です。寂しいですね。ぜひ高校三年間で得たことを大事にして下さい。みなさんが四月からの新生活で色々なことに挑戦して、裕かに、聡く、逞しい大人へ成長してくれることを願っています。

(五組担任 本間 亮)



美術・書道 修了作品展

第8回を迎える今回の修了作品展では美術Ⅲ、素描選択者7名と書道Ⅲ、実用書道選択者3名が、1年間の学びの成果を酒田市街なかキャンパスに展示しました。最終日とその前日は「寒鰯まつり」と重なったこともあり、700名近い県内外の方々からも鑑賞していただくことができました。出品者は搬出入や会場当番などの運営に関わるとともに、作品をとおして多くの方々と交流することができました。作品制作の先にある広く深い世界を垣間見ることもできた、貴重な発表の場となりました。



センター試験 激励会 3年次

センター試験前日1月13日に激励会が行われました。校長先生より『宙船』のオカリナ演奏や歌での激励、PTA役員からの挨拶、教職員の激励メッセージスライドショーがあり、3年次団の教訓を交えたユーモアあふれる寸劇も会場を盛り上げました。また、各クラス代表の生徒により、「絶対に合格する！」という強い決意が表明されました。



3年次団の寸劇



読書会 1年次

1年次読書会は昨年度までのビブリオバトルに代わってリテラチャー・サークルを行いました。リテラチャー・サークルは、楽しくおしゃべりするサークルのことであり、参加者が各々役割シートをもとに話し合う読書会の一つの方法です。図書委員会でテキストを選定し、各グループの司会者40名でシミュレーションを行いました。図書委員は準備段階から当日の司会進行まで一生懸命に取り組みました。「楽しい時間だった」という声もありましたが、改善すべき点も出されましたので、次回に反映させていきたいと思ひます。

